

オーストラリア・クイーンズランド大学における 保健体育科教師教育プログラム

長谷川悦示・高橋 健夫

1. はじめに

オーストラリアの教員制度は全国的な整合性を高めようとする動きもあるが、現時点では基本的に、各州・直轄区教育行政が、教員資格要件、教員養成課程認定、教員の力量規準に関する制度を設けている(佐藤 2003)。本報告で紹介するクイーンズランド大学の場合、そこでの教員資格要件にかかわるカリキュラムはクイーンズランド州から課程認定を受けている。

クイーンズランド大学は、その規模と歴史・伝統からオーストラリアを代表する大学の一つであるが、特に体育・スポーツ科学分野においては、独立した教育・研究組織である学科 (School) を有している。このヒューマン・ムーブメント・スタディ学科 (School of Human Movement Studies ; 以下では、HMS と表記する) は、クイーンズランド大学における保健体育科の教員資格に関するカリキュラム設計と授業科目を提供するだけでなく、オーストラリアのトップアスリート養成の中核機関であるオーストラリアスポーツ科学研究所 (Australia Sport Institute) とも早くから連携していることで知られている (HMS, 2002; <http://www.hms.uq.edu.au/>)。

本稿では、この HMS での保健体育教師教育のカリキュラムについて概観し、また 2002 年度において HMS を訪問した際に観察することのできた授業について紹介したい。誌面の都合で十分な解説ができないが、詳細については関連ウェブサイトを参照していただきたい。

2. HMS の学士と保健体育教師の資格

HMS は、クイーンズランド大学にある 6 学部のうちの健康科学部に属する学科 (School) の一つである。クイーンズランド大学における保健体育科の教員資格に関連するプログラムは、HMS で開

設するコースを履修することで取得できる。ここでいうプログラムとは、学位授与に備える学業コース全体を意味し、コースとは、プログラムを構成する通年または半期におよぶ授業単元をさす。これらのコースが各学科で運営される。

HMS では、健康科学部の学生のほか、生物化学部と文学部の 2 つの学部学位に関連するプログラムのコースを提供している。健康科学部の学生は、4 年制の応用科学学士 (BScApp(HMS)) を取得することができる。この学士には運動科学 (BScApp(HMS-ExSc)) と教育 (BScApp(HMS-Ed)) の 2 種類があり、学生は 3 年次以降にどちらかを選択して専攻する。

生物化学部の学生は、ヒューマンムーブメント科学領域における 3 年制の科学学士 (BSc(HMS)) を取得することができ、また文学部の学生には、3 年制による文学学士 (BA(HMS)) のプログラムを提供している。科学学士と文学学士を 2 つ取得することも可能である。

応用科学学士 (BScApp(HMS)) の取得には最低でも 4 年間の学業を必要とし、他の BSc や BA の学士以上に、学生には HMS においてより詳細でより専門職志向の学習を求めている。運動科学コース (BScApp(HMS-ExSc)) は、運動のマネジメントや処方に関わる専門的な知識、技能、実践的経験を提供することをねらいとし、卒業生に対しては心肺ストレステスト、筋力・心肺機能などのリハビリテーション、健康・フィットネス関連のセンターや病院などの運動生理士の就職機会を提供する。この学位はオーストラリア運動スポーツ科学学会によって運動生理士としての会員資格の条件を満たすことになる。

一方、教育コース (BScApp(HMS-Ed)) は、保健体育科指導ならびにその他の教授学や指導法に関わる専門的な知識、技能、実践的経験を提供す

ることをねらいとする。この学位はクイーンズランド州教員登録委員会 (Board of Teacher Registration) によって認可されており、卒業生に対しては初等、中等、特殊教育の教職にくわえて、コーチング、ヘルスプロモーション、各種の青少年を対象とする仕事に就職する機会が保証される。

保健体育科教員の資格は、この4年制の応用科学学士(教育)を卒業することによって得られる。卒業生がクイーンズランド州で教員に就く場合、クイーンズランド州の教員登録委員会に申請することで、自動的に仮教員として登録 (provisional registration) される。彼らが正教員として登録されるためには、約1年間の教員研修を受けなければならない。また、資格の更新は毎年一定額の登録料を委員会に納めることで継続することができる (<http://www.btr.qld.edu.au/>)。オーストラリアにおいては教員不足が続いており、卒業生のほとんどが教員に就職しているのが現状である (佐藤, 2003)。

HMS の受け入れ定員 (quota) は、1学年 120名である。応用科学学士 (BScApp (HMS)) の取得を希望する学生は、定員の1つを得なければならない。定員への申請は、クイーンズランド州入学センターをとおして行われる。定員内の学生の選考は、学校における学業成績によって決定され、面接は実施されず、また優秀なアスリートのための特別定員もない。応用科学学士 (BScApp) の定員を求める学生に対しての選考基準は上級英語に加えて生物、化学、あるいは物理のうちの一つを履修している必要がある。保健体育は入学時には要求されない。

学生は3年次以降に2つの課程のどちらかを専攻するが、近年では運動科学と教育の課程それぞれを平均して約50名が選択している。人数が減少しているのは一定の成績を収めない学生が進級できない場合や他学部の課程に転科した場合などがあるためである。また、科学学士および文学学士の課程を専攻する他学部の学生はそれぞれ5名程度である。

3. HMS のカリキュラム構成の特徴

HMS の応用科学学士、特に教師教育のカリキュラム構成について述べる (HMS, 2003)。

カリキュラム構成の第1の特徴は1年次と2年

次は、運動科学課程と教育課程は共通したコースを履修し、3年次と4年次は、課程ごとに分かれるように設計されていることである (表1及び表2を参照)。

1年次では、関連する科学領域の基礎科目 (人間生物学、解剖学、心理学、物理学、生化学) に加えて、ヒューマンムーブメント研究の3つの基礎領域 (生物生理的基礎、社会文化的基礎、身体運動と健康) の科目を履修する。2年次になると、ヒューマンムーブメント研究における下位領域科目を履修する。すなわち、バイオメカニクス、運動生理学、教育学、運動コントロール、機能解剖学、スポーツ社会学、運動スポーツ心理学などである。そして、3年次、4年次においては専門職志向の科目履修となる。

第2の特徴としては、カリキュラムにおける履修科目のほとんどが定められているということである。したがって学生はHMSが推奨する科目を順次履修しなければならない。

HMS の応用科学学士の取得に必要な履修単位数は64単位 (credit / unit) である。例えば筑波大学の必要履修単位数が124単位であるのと比べると、HMSでの1単位における授業時間が2倍に相当する計算である。具体的な授業の節で後述するが、多くの科目で重複数回行われている。

第3の特徴は、中・長期間の実習科目が位置づけられている。これらの科目は3年次以降において、応用科学と教育それぞれで必修科目となっている。

教育においては、3年次において20日の教育実習、4年次において60日の教育実習を設定している。応用科学では400時間の実践現場での実習が課せられている。

4. 授業コースの概要とシラバス

保健体育教員資格にあたる授業の概要についてみていく。表2には、主だった教育プランの授業について概要と評価方法を掲載してある。

実際の各授業コースについては詳細なシラバスが事前に準備されており、それらは受講生に配布され、そして授業はそれに基づいて実施されている。HMSでのシラバスは、1つのコースについてA4サイズで10頁以上に及んでいる。

入手できたシラバスからその構成をみると、概ね以下のような内容が含まれている。

表1 HMSにおける応用科学学士に関わる履修科目 (Student Guide, 2003, pp.20-22 より)

学年1と学年2のための履修ガイドライン			
学年1			
学期1	BIOL 1015	ヒューマン生物学	2
	BIOL 1008	ヒューマンムーブメント研究のための生化学とマイクロ生物学	2
	HMST 1900	ヒューマンムーブメントの生物生理学的基礎	2
	HMST 1000	運動と健康	2
学期2	ANAT 1005	ヒューマンムーブメントの解剖学的基礎	2
	HMST 1910	ヒューマンムーブメントの社会文化的基礎	2
	PHYS 1170	生物学的体系の生理学的基礎	2
	PSYC 1020	心理学入門:生理心理学・認知心理学	2
または	PSYC 1030	心理学入門:発達心理学・社会心理学・臨床心理学	2
学年2			2
学期3	PHYL 2007	ヒューマンムーブメント研究のための生理学	2
	HMST 2190	社会におけるスポーツ・身体運動:現代までの歴史	2
	HMST 2430	スポーツ・運動心理学	2
	HMST 2530	運動制御と学習	2
学期4	ANAT 2029	筋骨格解剖学	2
	HMST 2220	学習のためのコミュニケーション	2
	HMST 2630	バイオメカニクス	2
	HMST 2730	運動生理学	2
学年3と学年4のための履修ガイドライン 教育プラン			
学年3			
学期5	HMST 3010	ヘルスプロモーション:理論と実践	2
	HMST 3221	教授技術と指導ストラテジー	2
	HMST 3231	運動指導のための最新ストラテジー	2
	HMST 3261	カリキュラムの社会的構成論	2
学期6	EDUC 4292	3年生のためのヒューマンムーブメント研究の科学	1
	HMST 3070	特殊体育	2
	HMST 3204	教育実習1(20日間)	1
	HMST 3241	飛問による教授法	2
	SOCY 2280	スポーツ社会学	2
学年4			
学期7	HMST 4204	教育実習2(60日間)	6
	HMST 4221	健康増進のための教育	2
学期8	HMST 4061	カリキュラム・リーダーシップ	2
	EDUC 20--	2つの EDUC コース	2
	選択科目		4
* 選択科目は、学科の推奨する科目は、HMST3915,3925,3935,3433,4052,3103,3633,3353,3013/4013; PSYC3062 & 3132 などである。			
学年3と学年4のための履修ガイドライン 運動科学プラン			
学年3			
学期5	HMST 3010	ヘルスプロモーション:理論と実践	2
	HMST 3362	運動処方とプログラムング	2
	HMST 3732	上級運動生理学	2
	HMST 3382	運動科学:技術的スキル	2
学期6	HMST 3070	応用身体運動	2
	HMST 3372	運動マネジメント:専門職的スキル	2
	選択科目		4
学年4			
学期7	HMST 4314	実習(400時間)	8
学期8	HMST 4052	身体運動のスポーツ医学	2
	選択科目		6
* 選択科目は、学科の推奨する科目は、HMST3915,3925,3935,3433,3633,3353; PSYC3062 & 3132 などである。			

注) クイーンズランド大学は2学期制で、学年の第1学期は3月中旬から6月末まで、第2学期は7月中旬から11月末までである。卒業単位数は64単位で、学期あたりの標準取得単位は8単位とされている。

表2 教育プランの主な授業の概要 (Student Guide, 2003, pp.67-80 より作成)

HMST 1910	ヒューマンムーブメントの社会文化的基礎 概要：ヒューマンムーブメント研究における社会学、歴史学、哲学、教育学、心理学などの社会文化的な学問の役割について学習する。 評価：課題レポートと最終試験 テキスト：講義で指示	学年1・学期2 / 2単位
HMST 2220	学習のためのコミュニケーション 概要：学習とは何か。学習過程における効果的なコミュニケーションについて、運動分析や各種指導法について紹介する。 評価：中間試験と課題 テキスト：Knuson,D.V.,& Morrision,C.S.(2003) <u>Qualitative analysis of human movement</u> . Champaign, IL: Human Kinetics. Lauder,A.G.(2001) <u>Play practice: The games approach to teaching and coaching sports</u> . Champaign,IL: Human Kinetics.	学年2・学期4 / 2単位
HMST 3204	教育実習1 概要：小・中学校、屋外教育施設、その他の運動施設における20日間の教育実習。 評価：実習パフォーマンス、合格 / 不合格 テキスト：Tinning,R., Macdonald,D., Wright,J. & Hickey,C.(2001) <u>Becoming a physical education teacher</u> . Sydney: Person Education.	学年3・学期6 / 1単位
HMST 3221	教授技術と指導ストラテジー 概要：体育授業において要求される教授スキルやストラテジーを学習する。体育科やコーチ場面における教授の目的を理解し、模擬授業での自分自身の指導について省察する。 評価：課題レポート、マイクロティーチング、実習 テキスト：Tinning,R., Macdonald,D., Wright,J. & Hickey,C.(2001) <u>Becoming a physical education teacher</u> . Sydney: Person Education.	学年3・学期5 / 2単位
HMST 3231	運動指導のための最新ストラテジー 概要：運動場面におけるコミュニケーションや指導の能力を向上させる。さまざまな運動の学習指導に役立つ指導アプローチを実践する。 評価：課題レポート テキスト：特に指定しない。	学年3・学期5 / 2単位
HMST 3241	発問による教授法 概要：高度な教授スキルやストラテジーの活用法を学ぶ。計画と指導における能力と自信を育てる。小学校や中学校における実習にまたがって学習する。中学校で直面する問題については積極的に関与し、創造的な解決法を学習する。 評価：グループプロジェクト、専門職規準、指導パフォーマンス テキスト：Mosston,M.,& Ashworth,S.(1994) <u>Teaching physical education(4th ed.)</u> . Columbuws. Ohio: C.E,Merrill. Mezler,M.(2000) <u>Instructional models for physical education</u> . Boston:Allyn & Bacon.	学年3・学期6 / 2単位
HMST 3261	カリキュラムの社会的構成論 概要：カリキュラムの設計や評価に関わる課題や問題について学習する。保健体育に関するカリキュラム資料を分析する。HMST3221 教育実習1で指導する授業単元を計画する。 評価：課題レポート、試験、単元計画 テキスト：Tinning,R., Macdonald,D., Wright,J. & Hickey,C.(2001) <u>Becoming a physical education teacher</u> . Sydney: Person Education.	学年3・学期5 / 2単位
HMST 4204	教育実習2 概要：学校における60日間の教育実習。 評価：実習中のファイルを含めた実習パフォーマンス、合格 / 不合格	学年4・学期7 / 6単位
HMST 4221	健康増進のための教育 概要：教室指導において保健体育教師が直面する重要な問題や課題について検討する。 評価：9年生のためのオンライン健康資料の作成、11学年のための単元計画 テキスト：Germov,J.(1998) <u>Second option: A introduction to health sociology</u> . Melbourne: Oxford.	学年4・学期7 / 2単位
HMST 4221	カリキュラム・リーダーシップ 概要：最新のカリキュラムを調査することで、クイーンズランド州における保健体育に関連する課題を分析する。 評価：講義において提示	学年4・学期8 / 2単位

- ・担当教官：連絡先、オフィスアワー等。
- ・チューター：補助スタッフの紹介。
- ・コースの目標
- ・受講資格
- ・コースの展開方法：講義、模擬授業、学校実習等。
- ・内容の概要：各授業での学習内容。
- ・日程表
- ・テキストと資料の紹介
- ・評価方法：要求する課題、例、授業分析出席・欠席の扱い方
- ・評価規準：学習すべき達成基準を一覧表等で明示（表3及び表4参照）。

シラバスの内容構成からは、授業は講義形式だけでなく、学内体育館などを使用した模擬授業や、地域の学校での教育実習を併用した授業コースのあることが注目された。

このことは筆者らが2002年3月のHMS訪問においていくつかの授業を参観する機会で実際に確認することができた。

学年2の前期開講の「社会におけるスポーツ・身体運動：現代までの歴史」は200人が収容できる大教室の授業であった。しかし、授業の進め方

は、一方的な講義形式ではなく、適宜、発問を投げかけ、学生たちが積極的に授業参加できるよう工夫されていた。また、ティーチングアシスタント（チューター）をうまく活用して学生の学習活動を補助させると同時に、視聴覚教材をバランスよく加えていたという印象を強く受けた。参観した授業では、ギリシア時代のオリンピック遺跡についての映像が上映されていた。（次節ではHMSの保健体育教師教育の代表教授であるリチャード・ティニン教授による「教授技術と指導ストラテジー」（学年3の1学期開講）授業展開とその様子を紹介する。）

また、シラバスにおいて評価規準を明確にしているところは大いに参考にしなければならない。表3は、「カリキュラム・リーダーシップ」等で表明されている評価規準である。そこでは、クイーンズランド州でのカリキュラム調査をして、分析した結果や改善すべき事柄を合わせてプレゼンテーションすることを要求している。評価規準では、受講生の授業への積極的コミットメントを促すために、5つのカテゴリー（再生/特定、情報収集、適用/調整、評価、コミュニケーション）について5段階で評価するように設計してある。

表3 HMST4261 カリキュラム・リーダーシップで用いられる評価基準と評価規準

評価基準	7	6	5	4	3
1.再生/特定	正確に重要な様相のすべてを自由自在に再生/特定する。	正確に重要な様相のすべてを再生/特定する。	重要な様相のたいていを再生/特定する。	重要な様相をいくらかは再生/特定するが、事実や解釈に誤りがある。	様相をほとんど再生/特定できず、事実や解釈に誤りがある。
2.情報収集	広範囲にまた創造性のある事例や学習経験、リファレンス、資料、データ等を収集している。	ある範囲までの良質の事例やリファレンス、資料、学習経験、データ等を収集している。	ある範囲までの事例やリファレンス、資料、学習経験、データ等を収集している。	最低限の事例やリファレンス、学習経験、資料、データ等を収集する。	ほとんど事例やリファレンス、学習経験、資料、データ等を収集していない。
3.適用/調整	まとまりのある論理的な推論/分析につながるように情報を適用/調整することができる。	適切な推論/分析につながるように情報を適用/調整することができる。	ある程度の論理的な推論/分析につながるように情報を適用/調整することができる。	課題に見合うように情報を適用するが、調整は限定的である。	情報を適用しようとして試みるが、論理的な推論/分析が欠けている。
4.評価	信頼できる確かな理由づけ、解答または結論を提示するために情報を評価する。	信頼できる理由づけ、解答または結論を提供するために情報を評価する。	ある程度の理由づけ、解答または結論を提供するための評価を示す。	評価を試みるが、解答はほとんどが平面的である。	評価を示さない。
5.コミュニケーション	完璧な表現で非常によく構造化されたプレゼンを表明している。	表現にわずかな誤りがみられるが、よく構造化されたプレゼンを表明している。	表現に誤りがみられ、あまり構造化されていないプレゼンを表明している。	コミュニケーションにまとまりがなく、表現に誤りがある。	コミュニケーションがほとんどなく、表現に誤りが多く、まとまりもない。

表4 教育実習の評価規準

1. 専門職的な知識や価値の活用および発達	2. 最適な学習のための計画	3. 学習過程の促進	4. 生徒とのコミュニケーション、相互作用および作業	5. 持続的な進歩・向上のための省察、評価および計画
1.0 専門職的な行動規準をモデルに行動する	2.0 安全で支援的な学習環境を計画する	3.0 学習過程を促進する方法に気づく	4.0 生徒とのコミュニケーションや相互作用の重要性に気づく	5.0 指導パフォーマンスの長所と短所に気づく
<ul style="list-style-type: none"> 専門職的なマナーで自分のことを表明する。 時間を厳守する。 仕事をきちんと提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切で安全な用具や施設の使用を計画する。 効果的な学習組織の構成を計画する。 場面ごとのマネジメント/しつけを計画する。 指導の手がかりを計画する。 必要に応じて発展的な仕事を計画する。 多様な指導スタイルを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な授業マネジメントを実行する。 学習組織の構造化がはかれる。 クラスに影響する外的な要因に気づく。 マネジメント/しつけ計画が明白で効力がある。 指導の手がかりを授業で一貫して指導、強化する。 指導した活動がクラスのグループに適合するように調整する。 多様な指導スタイルを小グループに実行する能力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> どのようなときでも個別的に対応することの重要性に気づく。 意欲や積極的な参加のモデルとなる。 声かけの効果的な活用に気づく。 説明の効果的な活用に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導パフォーマンスを批判的に省察し、個々の指導要素を分析して長所と短所を理解する能力を示す。 実践のレベルに省察を反映させる。
1.1 教師としての専門職的な価値、コミットメント、責任を理解し表明する	2.1 教材や資料に関する知識に基づいて計画する	3.1 計画を実行する能力を示す	4.1 クラス集団内の生徒と効果的なコミュニケーションをとる	5.1 自分自身の実践を批判的に省察する
<ul style="list-style-type: none"> すべての学習者に対する配慮や関心を示す。 社会的・情緒的に適切に成熟していることを示す。 意見を聞き、学ぶ姿勢と意思を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 的確で包括的な教材。 公正、安全などの重要な指針を考慮する。 学習指導のストラテジーが今日的な指針やシラバス、ワークプログラムを考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動エリアの物理的安全を保つ。 計画の流れに合わせて、必要に応じて適切に修正できる。 生徒の注意を保持する。 クラス全体の学習課題を達成させる。 肯定的な強化を提供する。 生徒の自己/相互評価を奨励する。 肯定的な生徒の行動を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> 声かけのピッチやペース、計画。 明確な説明。 文法的に正確な言葉づかい。 熱意を伝え、生徒の意欲を持続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 成功したことがらを明確にする。 改善する領域を明確にする。 質問(技術的、社会的、倫理的、政治的)を投げかける。 生徒の参加をモニターする。
1.2 教師、チューター、仲間、補助スタッフと効果的に作事する	2.2 グループの学習を進歩させるために計画する	3.2 クラスの反応に応じて指導を調整する	4.2 生徒や他者との相互作用によって生徒の発達をサポートする	5.2 省察に基づいて計画や指導を調整する
<ul style="list-style-type: none"> 学習指導を向上させるために監督教員や仲間と連携する。 肯定的な指導の環境を築くことにつとめる。 学校やスタッフルームの環境に適應する。 補助スタッフと共同的に仕事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の課題への従事時間を最大限に計画する。 適切で創造的な課題を発展的に計画する。 非従事行動を防ぐストラテジーを準備する。 学習指導過程の一部として、シラバスやワークプログラムにそった評価を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進歩をチェックするために測定/評価する。 生徒の進歩に対応し、必要に応じて指導を繰り返す。 多様なフィードバックを与える。 課題従事時間を保持する。 グループの学習進行に応じて授業のペースを調整する。 生徒の学習をモニターできるように自分のポジションをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の質問やコメント、沈黙を受けとめ対応する。 生徒が個人の学習や学校の問題を克服できるように助力する。 生徒の学習の長所や関心を理解し伸ばすようにする。 サポートスタッフと連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導過程を適切に調整できる。 調整する意思決定を明確にする。 後続の計画や指導に関係する方針や資料を再考する。

表4のつづき

1. 専門職的な知識や価値の活用および発達	2. 最適な学習のための計画	3. 学習過程の促進	4. 生徒とのコミュニケーション、相互作用および作業	5. 持続的な進歩・向上のための省察、評価および計画
1.3 専門職的な知識を積極的に発達・共有する	2.3 一定の範囲の学習成果をめざして計画する	3.3 グループの反応に応じて指導を調整する	4.3 学習を最大限にひきだすように生徒と相互作用する	5.3 一連の授業を通して学習指導を組織的に観察・評価する
<ul style="list-style-type: none"> ・同僚と指導に対する考えを共有する。 ・資料の開発に参画する。 ・コーチングやセミナーなどの専門職的な能力発達のための活動を企画する。 ・プログラムの計画づくりを補佐する。 ・より大きなコミュニティと交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる学習スタイルを計画する。 ・多様で適切な指導方法やストラテジーを計画する。 ・異なる能力グループを考慮して、課題のレベルに応じた評価を計画する。学習を阻害する要因を予測して計画する。 ・教材をより深める計画をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習レベルに合わせて活動の焦点を変える。 ・学習パターンに合わせて指導スタイルを調整する。 ・レベルに合わせて学習を最大限にするために授業のペースを操作する。 ・生徒の進歩や自尊心を高めるようにモニタリングや評価を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の目標や期待を説明し交渉する。 ・発問を方略的に使用する。 ・すべての生徒を学習へ動機づける環境を提供する。 ・自律心の育成など肯定的な生徒の行動を奨励し、不適切な行動による結末を強く意識させる。 ・生徒の学習過程を豊かにするために社会的・文化的な背景を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習に関する情報を組織的に収集する。 ・評価の手順に関する知識を示す。 ・指導行動に関する情報を組織的に収集する。 ・生徒の学習に対応して単元のペースや方向性、強調点を調整する。
1.4 共同カリキュラム活動に参加する	2.4 個々の生徒に応じた最適の学習を計画する	3.4 個人の学習を伸ばす		5.4 学習に関する情報を提供する評価プロセスを整える
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフミーティングや生徒の自由な曜日、催しセミナーなどに参加する。 ・学校の支援活動、キャンプ、クラブなどを効果的に手助けする。 ・教師の様々な役割を自信をもって遂行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に応じて多様な学習経験を計画する。 ・個人の能力、関心、評価規準に学習経験を合わせる。 ・生徒の参加を最適にするよう創造的に計画する。 ・生徒が教材相互を関連づけられるように助力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の要求に適切に合わせる調整力や柔軟性を発揮する。 ・個々の学習者に挑戦する指導ストラテジーを実行する。 ・個人の達成を最大限にする具体的なフィードバックを提供する。 ・規準や成果に求められるパフォーマンスについて個人の理解を深めさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・適切で詳細なフィードバックを提供する。 ・意思決定において基準/標準/成果をうまく活用する。 ・生徒の学習成果を正確に記録する。

教育実習についても充実したシラバスが準備されているが、そこにも表4に示すような評価規準が明確にされており、実習生はこれらに準拠して実習を進める。と同時に、実習生の指導にあたる各学校の教員は、表4の評価規準に基づいて実習生の指導パフォーマンスを評価するように求められている。

表4の教育実習の評価規準は、まず大きく5つの評価観点からなり、それぞれについて4から5の評価規準と具体的な行動事例が記載されている。評価観点は、(1)専門職的な知識や価値の活用および発達、(2)最適な学習のための計画、(3)学習過程の促進、(4)生徒とのコミュニケーション、相互

作用及び作業、(5)持続的な進歩・向上のための省察、評価および計画である。これらの具体的な行動事例では、授業者としての価値観や心構え、授業の計画段階の準備、実行段階でのパフォーマンス、そして反省・評価段階での省察が実習生に対して要求されている。

5. 具体的な授業コース実践

最後に、2002年3月に筆者らが参観することのできたリチャード・ティニング教授による「教授技術と指導ストラテジー」の授業実践について紹介する。

表5 ティニング教授の授業展開(2002年)

週	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	小学校実習	小学校実習	小学校実習	小学校実習	小学校実習
2	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	
3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	
4	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	講義/模擬授業 午後1-3	
5		小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
6		小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
7	午後1-2	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	祝日	
8	午後1-2	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
9	祝日	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
10	午後1-2	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
11	午後1-2	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
12	午後1-2	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	
13	午後1-2	小学校実習 グループA	小学校実習 グループB	小学校実習 グループC	

このコースは20日間の1回目の教育実習を後期に控えた3年次前期に開講される。コースに教授学入門(Instruction to Pedagogy)の副題が付けられているように、小学校体育指導に必要な教授技術と指導ストラテジーを習得することにねらいがある。

この授業コースの最大の特徴は、講義、模擬授業、小学校での実習が同一コースに含まれていることである。表5にあるように、第2週から第4週の月曜日から木曜日までの午後1-3時は12回にわたって、教室での講義と体育館での模擬授業が実施される。小学校での実習は第1週の後、第5週から第13週にかけて3グループに分かれて実施される。そして第7週から第13週には教育実習での学習を反省するために午後1時から1時間の講義が計画されている。

筆者らが参観できた授業は、第2週における大学での講義と模擬授業の1コマであった。

図1には、授業の様子を記録した写真を掲載してある。参観した授業では、「教師によるマネジメ

ント技術」についての講義が前半の1時間を利用して実施されていた。写真にあるように、ティニング教授は発問法やグループ討議、要点の板書とOHPや編集した授業映像などを用いて授業を展開していた。

そして、後半の1時間を体育館に移動して模擬授業(マイクロティーチング)が実施された。

体育館をマットで2つに仕切り、それぞれで15分程度の模擬授業が3セット、合計で6回の授業が実施された。1セットの模擬授業ごとに全員が集合して5分程度の討議がティニング教授の主導のもとに行われていた。

コースの各1時間で6人の学生が授業者役を経験したことになり、全授業コースではのべ72人となる。したがって、受講者が50人程度であるとすると多くが2度の教師役を経験する計算となる。これをみてもHMSでの教師教育プログラムがわが国のそれに比べてはるかに実践的であることがうかがえた。



授業の課題提示：「授業コントロールとは何か？」本日の授業テーマについて説明。



OHP を用いての要約：発表のまとめと同時に準備していた研究レビューを紹介する。



グループ討議：小グループで授業コントロール、マネジメントについて話し合わせる。



映像教材の活用：実際の授業を視聴させ概念を理解させる。



生徒の発表：グループで話し合った内容を全体に対して発表させる。



映像教材の活用：教師の合図に応じて反応するゲーム。

図1 ティニング教授による HMST 3221 教授技術と指導ストラテジーの授業風景 (2002.3.19)



教室授業の総括：次回の内容・課題を提示し、模擬授業のために体育館へ移動させる。



模擬授業2：反対側では、ボールキャッチのゲーム。その後、ドッジボールを展開していた。



模擬授業の準備：マットを境に2つの授業クラスを設定する。15分授業を3セット、計6授業。



模擬授業3：一連の走運動を教師の演示につづいて学習。



模擬授業1：クリケット型のゲーム。教師役がルール解説をしている。



ティニング教授の指導：セット毎に集合させ、授業の指導ポイントについて省察させていた。

6. おわりに

オーストラリアを代表する保健体育教師教育のプログラムをクイーンズランド大学にみる事ができた。

ここでは、保健と体育の教師教育にむけた一貫したカリキュラム構成がなされており、中・長期の教育実習が年度にまたがって位置づけられていた。また、プログラムを構成する各授業コースをみると、充実したシラバスが作成され学生や実習校の協力教員にも広く明示されていた。そして教育実習以外でも、大学における授業コースにおいて、講義や模擬授業(マイクロティーチング)教育実習を繰り返し計画・実施していた。

ここからは専門職 (professional) である教師の輩出をめざして理論と同時に実践的能力の育成を重視したカリキュラム設計がなされていた。そして教授スタッフの指導法をみても種々の革新的方法を取り入れた学生の能力向上につながる優れた授業の実践が強く志向されていた。

今後ともオーストラリア・クイーンズランド大学と積極的に情報交流をすることで、わが国にも有益な保健体育教師の養成・研修・人事のあり方をさぐっていききたい。

参照シラバス

HMST 3204 Third Year Practicum Observation

Handbook, 2002.

HMST 3221 Instructional Skills and Strategies, 2002.

HMST 3231 Contemporary Approaches to Teaching Movement, 2002.

HMST 3261 Social Construction of Curriculum, 2002.

HMST 4204 Forth Year Major Teaching Practicum Handbook, 2002.

HMST 4221 Education for Better Health, 2002.

HMST 4261 Curriculum Leadership, 2002.

参照ウェブサイト

ヒューマン・ムーブメント・スタディ学科 (HMS)

<http://www.hms.uq.edu.au/>

クイーンズランド大学(UQ)

<http://www.uq.edu.au/>

クイーンズランド州教員登録委員会

<http://www.btr.qld.edu.au/>

文献

佐藤博志 (2003) オーストラリアの教員制度 - 養成・研修・人事 - . 日本教育大学協会編「諸外国の教員制度 養成・研修・人事」.

School of Human Movement Studies (2002) Research report school of Human Movement Studies 1999-2001.

School of Human Movement Studies (2003) Student Guide.